

# オープンソースツール: Auto SS Config

**Auto SS Config** というツールをオープンソース化したことを発表できることを嬉しく思います。このツールは、Shadowsocks の URL から Shadowsocks または Clash のサブスクリプション URL を自動生成し、アップロードするもので、プロキシサーバーの設定を管理・更新するのがより簡単になります。

このツールは、特に Shadowsocks サーバーがブロックされたときに、私にとって革命的な存在でした。Outline Manager を使用して新しいサーバーを作成し、新しいアドレスを取得し、この URL を Mac アプリを使って直接インポートすることで、GFW の制限を回避しています。このプロジェクトから `python upload_configs.py` を実行することで、サブスクリプション URL が更新され、すべてのデジタルデバイスが機能的なネットワーク接続を維持できるようになります。

## 機能

- **Shadowsocks URL を Clash 設定に変換:** 異なるプロキシ設定を簡単に切り替えられます。
- **複数の Shadowsocks サーバーをサポート:** 複数のサーバーを簡単に管理できます。
- **設定を Google Cloud Storage に自動アップロード:** 設定を安全に保管し、いつでもアクセス可能にします。
- **設定を公開可能にする:** 設定を他の人と共有できます。
- **キャッシュコントロールを使用して即時更新を実現:** 設定が常に最新であることを保証します。

## ファイル

- `app_config_tmp.yaml`: アプリケーション設定（バケット名、SS URL）。
- `clash_config_tmp.yaml`: 一時的な Clash 設定ファイル。
- `upload_configs.py`: Clash 設定を生成し、設定を Google Cloud Storage にアップロードするスクリプト。
- `requirements.txt`: Python の依存関係。

## セットアップ

1. **依存関係をインストール:** `bash pip install -r requirements.txt`
2. **Google Cloud の認証情報を設定:**

- Google Cloud SDK をインストールします。
- `gcloud auth application-default login` を実行します。
- または、`GOOGLE_APPLICATION_CREDENTIALS` 環境変数を設定します。

3. `app_config_tmp.yaml` を `app_config.yaml` にコピーして設定する: `yaml`      `bucket_name:`  
`your-bucket-name`      `ss_urls:`      `- ss://method:password@server:port`

## 使用方法

1. `app_config.yaml` の `ss_urls` リストに **Shadowsocks の URL を追加する**: `yaml`      `ss_urls:`  
`- ss://method:password@server:port`

2. **設定ファイルのアップロード**: `bash`      `python upload_configs.py`

スクリプトは、両方の設定に対する公開 URL を出力します。

## 開発

- **Python 3.6 以上**
- YAML 処理には `ruamel.yaml` を使用します。
- GCS 操作には `google-cloud-storage` を使用します。

## ライセンス

MIT (マサチューセッツ工科大学)

---

詳細や貢献については、ぜひリポジトリをチェックしてください！